

## Contents

## 新たな取り組み

- 06 環境DNA分析手法の開発、複数の生物群の同時検出
- 04 特定外来生物由来のバイオ炭によるPFAS除去
- 02 河川・ダム管理DX推進に向けた検討手法の提案

## Working Report

- 10 水辺の魅力を活かした公民連携のかわまちづくり
- 08 AIとカメラで実現する河川巡視システム

## ネイチャーポジティブに向けた日本の現在地 ～生物多様性及び生態系サービスの総合評価

Column

国土環境研究所 生物多様性研究センター 築島 明

2025年10月、「生物多様性及び生態系サービスの総合評価2028(JB04:Japan Biodiversity Outlook4)に向けた中間提言」が環境省から公表されました。

JB0とは、日本の生物多様性及び生態系サービスの価値や現状等について科学的情報等を基に総合的に評価し、とりまとめた結果を示すものです。これは日本の生物多様性等の状態やそれらに関する取り組みにおける日本の現在地を明らかにし、今後取り組むべき課題を示す役割を担っています。1回目のJB0(JB01、2010年)では、過去50年間の日本の生物多様性の状況と現状の評価を、次のJB02(2016年)では、これに生態系サービスにかかる評価を加え、JB03(2021年)では、さらに生物多様性の損失を止めて回復に向かわせるための「社会変革」のあり方についても科学的知見を提供する等、国際的な議論も踏まえつつ、これまで内容が充実されてきました。生物多様性と生態系サービスに関する傾向等については、単一の測定結果でこれらをとらえることができるものはなく、地球規模でも各種の指標に基づいた総合的な評価が行われています。

今回公表されたJB04中間提言は、2028年公表予定のJB04の最終的な取りまとめに先だって「生物多様性国家戦略2023-2030」の5つの基本戦略の下に設定されている計15の状態目標の達成に向けた状況について、2020年を基準年とした短期トレンド評価の結果を示すとともに、同戦略が短期目標として掲げる「2030年ネイチャーポジティブの実現」に向けた見通し等に関する中間レビュー

結果を記したものです。ここでは「我が国の生物多様性は全体として損失し続けており、生態系サービスも回復するまでには至っていないと考えられる」、「ただし、生物多様性の損失の背景に位置付けられる社会経済状況については部分的であるが改善していると考えられる」、「2030年ネイチャーポジティブの実現に向けては、産官学民が連携・共同し、引き続き多角的な取組を実施・加速化することが必要である」こと等が示されました。

JB04中間提言は、政府が進めている同戦略の中間評価とともに、「昆明・モンリオール生物多様性枠組み(GBF)」の進捗状況を把握・分析するグローバルレビューに向けて、政府が提出する国別報告書の作成にも活用されています。

当社は、生物多様性損失の根本的な要因である社会・経済活動との関係性を初めて定量的に評価し、その結果をもとにJB03の作成を支援する等、これまで継続してJB0に携わってきています。また、生物多様性国家戦略の策定、OECM、保護地域の指定管理、地方自治体の生物多様性地域戦略の策定、希少種保全対策、外来生物対策、自然の回復・創出、民間企業等の生物多様性への取り組みのほか、深海を含む海域から陸域までのあらゆる生態系の調査・モニタリングの分野等に実績を積みできました。これらの幅広く豊富な経験と培ってきた技術を活かして、2030年ネイチャーポジティブの実現に向けた取り組みに今後とも積極的に貢献してまいります。

